

臨終図巻

ニッポン
ドクター和の



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

338

ミュージシャン チバユウスケ

唯一無二の痺れる歌声

毎週金曜にこの「ドクター和のニッポン臨終図巻」を担当してから6年がたちましたが、昨年ほどミュージシャンの訃報に触れた年はなかったと記憶しています。

1月の連載から振り返れば、安全地帯ドラムスの田中裕二さん(2022年12月17日没。享年65)、高橋幸宏さん(23年1月11日没。享年70)、鮎川誠さん(1月29日没。享年74)、坂本龍一さん(3月28日没。享年71)、川満勝弘さん(4月20日没。享年78)、頭脳警察のボーカル、PANTAさん(7月7日没。享年73)、谷村新司さん(10月8日没。享年74)、もんたよしのりさん(10月18日没。享年72)、大橋純子さん(11月9日没。享年73)、KANさん(11月12日没。享年61)……書くことができませんでしたが、BUCK-TICKのボーカル、櫻井敦司



さん(10月19日没。享年57)など。そして12月に入り、この人の訃報もありました。

ロックバンド「ミッシェル・ガン・エレファント」のボーカルなどで

活躍したチバユウスケさんが、11月26日に死去。享年55。チバさんは、今年の4月に食道がんと診断され療養に専念していましたが、それから7カ月での旅立ちとなってしまいました。

食道がんと飲酒・喫煙

食道がんは男女比が6対1と、圧倒的に男性に多いがんです。50歳代から増加し始め、70歳代で最多となります。辛い物や熱い物をよく食べる、野菜や果物をあまり摂らないなど食生活の要因も指摘されていますが、飲酒と喫煙習慣が密接に関係していることが疫学研究により判明されています。

特に注意したいのが、アルコールが体内で分解されたときに生じるアセトアルデヒドという発がん性物質です。お酒に強い人か弱い人かは、この物質の分解遺伝子を体内にどれだけ持っているかで決まります。アセトアルデヒドをどんどん分解でき

るのが酒に強い人。少量で顔が赤くなってしまうのが、やや弱い人。まったく飲めない、いわゆる下戸タイプの人は、分解遺伝子がないということ。

日本人の食道がん患者の7割が「やや弱い人」です。同じ量のアルコールを摂取した場合、強い人に比べて、やや弱い人と下戸の人は、食道がんリスクが7.1倍というデータもあります。

食道がんは、初期の段階では痛みなどの自覚症状はほとんどみられません。胸やけをすることが増えた、食べ物を飲み込むときに違和感がある、逆流性食道炎を起こすという人は、すぐに内視鏡検査を受けることをお勧めします。

チバさんは酒にまつわるエピソードの多い人でした。飲まなければ生まれなかった作品もあるでしょう。僕も今、ワインを少し飲みながら彼の歌を聴いています。痺れる歌声。唯一無二でした。